

◎議長(鈴木敏正議員)

再開いたします。

次に、3番塩原未知子議員の発言を許します。塩原未知子議員。

[3番 塩原未知子 議員 登壇]

◎3番(塩原未知子議員)

おはようございます。3月定例会一般質問にあたって一言申し上げます。

東日本大震災から間もなく3年を迎えようとしております。しかし依然として福島原発の放射線対策、廃棄物の受入れ先が決まっておらず、3年が経過しても地域の復興がままならないところもあります。今週末には各地で復興を願うイベントが開催されておりますが、1日も早い復興を願います。そして、忘れもしないあの日、3月11日、尾花沢は震度5強の揺れが続き、恐怖で動けなかった記憶と、地震被害の記録をしっかりと忘れることなく、さらなる備えを強化して、ふるさと尾花沢の未来を描いて行かればいけないと確信して、通告にしたがい5つの質問をいたします。

3月1日の市報の折込に「緊急連絡のメール登録のお知らせ」がありました。緊急時における市民への細やかな情報発信の体制の整備は進んでいるのかお聞かせください。また、昨年見直しした市の防災マニュアルには、耐震基準に満たない庁舎建物内に緊急時の対策本部が予定されています。施政方針では庁舎建設は急ぐとはありましたが、巨大地震は明日にでも来るかも知れません。震度7の地震が発生した場合など、緊急対策本部の体制どのようになるのかお聞かせください。

次に、昨年3月の担当課の答弁でもありましたが、各地に避難所が設定され、100%の自主防災組織率とのことでしたが、未だにホームページには芦沢、毒沢の2カ所の洪水ハザードマップの掲載しかありません。ネット上で検索してみると、県の土砂災害危険地域のマップなどもあるのですが、今年2月25日の山形新聞の掲載記事には、県内で「洪水ハザードマップ」を策定していない自治体6カ所の中に大石田町、尾花沢市がありました。記事の内容では国の補助金も活用されなかったとの指摘、自治体の認知不足だったと書いてありましたが、当時のハザードマップ作成の進捗状況は、どのようになっておりますか、あらためてお聞かせください。

また、来月4月1日から市の緊急性のある情報をフェイスブックで情報発信するとお聞きしましたが、先日行われた第39回を数える尾花沢雪まつりの際、雪ま

つり部会で初めてフェイスブックのページを開設し、情報発信を行ったようです。開設してからちょうど1ヶ月ほど経過しておりますが、市民の反応やその他、活用状況についてお聞かせください。

次にこの度、山形県は「観光立県山形」の実現に向けて、おもてなし山形県観光条例を制定し、今年度のDCキャンペーンをきっかけにして昨年度から4年間かけ、産業振興関係の予算を200億円投入して、山形ならではの魅力ある地域資源を活用した「住んでよし、訪れてよし」の観光交流の拡大を図っています。我が尾花沢市において、国道347号の平成28年通年通行を見据えDCキャンペーン後の観光ビジョンこそ大事になってくると思われまます。市長のご所見をお願いいたします。

豪雪の冬に銀山温泉の雪を楽しみに来られるお客様が、昨年より少しづつ増えております。そして、先のご答弁にもありましたけれども、入場者数が増加に転じている花笠高原スキー場の日帰りのお客様を、徳良湖や市内各地に誘導する、観光客誘導作戦を強化する必要がありますと思います。この件に関するビジョンと、現在冬期間閉鎖のオートキャンプ場、完全予約制のレストラン徳良湖の運営体制の見直しなど、必要があると思います。平成26年度の対応についてお聞かせ願いたいと思います。

先の定例会でもおたずねしましたが、銀山温泉の日帰り観光客の急増に伴い、駐車場・休憩所・トイレが大変不足しているという声を聞きます。特に冬場の駐車場の不足には深刻な状況があると思います。このままでいては、日帰りのお客様の増加に対する対応がとれていないと思います。これからDCキャンペーンに向けて、日帰りのお客様が増えると思いますけれども、今後この問題を解決するには、どのような対策を講じているかお聞かせ願いたいと思います。

次に、観光博では東北一の案内人と評価をいただき銀山エリアの「おもてなしの心」さらに磨きをかけ、DCキャンペーン終了後もこの尾花沢らしい「おもてなしの心」が継承されていくことが、重要であると思います。6月からDCキャンペーンを控え、徳良湖・花笠高原・銀山温泉や芭蕉が10泊した尾花沢市の中心部、尾花沢の「おもてなし」体制をどのように継承しサポートしていくのか具体的にお聞かせください。

次に、3.11大震災後県内の各市町村では、風力、火力、太陽光発電やバイオマスエネルギーの活用で木質チップのボイラーの導入など、さまざまな再生可能エネルギーを活用し、原発依存のエネルギー供給から脱

却しようと努力しています。尾花沢市でも、まだまだ実証実験は始まったばかりではありますが、融雪に関しては、浅井戸の水温を利用した、サルナートの地中熱ヒートポンプの熱変換による実験が今年より開始され、大きな成果と豪雪地尾花沢に雪の積もらない生活に希望をもたらしています。燃料高騰時代の今こそ、このような公共施設に再生可能エネルギーを積極的に活用してはどうでしょうか。具体的に3項目についてお答え願います。

昨年の11月から、市民ホールに設置されているペレットストーブの効果はどうでしょうか。大変暖かな光りだということで待合のお客様に好評だと聞いております。緊急時の発電も可能な木質バイオマスボイラーの活用のボイラーなど、各地で導入されていると聞きます。状況についてお聞かせ願いたいと思います。

また、尾花沢市は次世代エネルギーパークにも指定されている「花笠の湯」があります。そこには、太陽光パネルや雪室の設置がなされていますが「花笠の湯」「御所の湯」の燃料が益々高騰するという一方で、重油に代わる代替エネルギーとして、再生可能エネルギーを活用するお考えはありませんか。お聞かせ願いたいと思います。また、さまざまな再生可能エネルギーの活用を図りながら、昨年夏から休館中の銀嶺荘を再活用する考えはないかお聞かせ願いたいと思います。

4つめの質問です。平成23年8月より議員になり、一番にお聞きしたかったことなのですが「はながさ市」という新しい名前が決まっていた尾花沢・大石田合併協議会が破談になって10年経ちます。

尾花沢市の人口は、2月1日現在なんですけれども18,192人、大石田町では7,905人、と市報、町報に書いておりました。当初予想を超える人口の減少が加速していると思われれます。両市町の今後100年を見据えた大石田町との合併の考えはありませんか。市長のご所見をお聞きしたいと思います。遠くない将来、合併を交渉する必要があるのではないのでしょうか。当時県議であった加藤市長であれば、破談になったときから今日までの経緯も含め、両市町の100年の未来を見据えた、お考えがきつとあることと思います。ぜひ、ご所見をお聞かせください。

先月の中ごろ、本当に120年ぶりという、甲信地域、関東地域のほうに大雪が降ったわけなんですけれども、たくさんの集落が孤立し、山形県でも48号が10日間雪のためにストップしました。ビジネスや観光、県民生活に大変ダメージを与えました。大雪には、毎年悩まされている尾花沢市です。今年ばかりは、本当にもっと

も多すぎる雪を、それを目当てに来てくださった、観光のお客様が多かったように私は思います。花笠高原スキー場には、家族づれや市外からスノーボーダー。銀山温泉には、たくさんの海外からのお客様も来られておりました。スポーツや観光だけでなく、尾花沢市のすぐれた雪国文化を世界に情報発信してみてもどうでしょうか。

豪雪地尾花沢は、昔から雪国ならではの知恵があります。里山文化に優れています。人・資源・文化など本市の宝を見直して、各地区に展開してきた「おらほの宝プロジェクト」とこれからDCキャンペーンに向けて、オール尾花沢で雪国観光ビジョンを再構築するとともに、それらの宝のブランディングと情報発信により産業の活性化を今こそ、図るべきではないでしょうか。以上のことを踏まえ、具体的には次の2点に対してお答え願いたいと思います。

今年から、議場にも雪冷房の恩恵を肌で感じられるようになると大変楽しみにしております。雪山がうず高くありますけれども、夏までたくさん残っていることと思いますので、この雪山を使ったさまざまな実験をこれからやっていただきたいと思います。そして、人口よりも上回る数、もしかしたらもっと増えるかもしれない尾花沢牛の牛糞尿や、また豊富な森林バイオマスエネルギーの地産地消に対して、当市としてどのようにこれから取り組んでいくのか、市長のご所見を伺います。

最後に、今年より3ヶ年の雇用創造協議会では「負けるな豪雪地！雪を攻略して雇用拡大を目指せ！」をテーマに掲げ事業に取り組んでいるようなんですけれども、食文化をはじめとする、本市の宝をどのようにして産業振興に結びつけていくのか、具体的にお聞かせください。

以上、壇上からの質問はこれで終わりますけれども、必要に応じて議席からの質問をお許しください。

◎議長（鈴木敏正議員）

市長。

◎市長（加藤國洋君）

ただいま、塩原議員からは提言も含めまして5つの項目についてのお尋ねを頂戴しました。順次お答え申し上げます。

まず、緊急時の連絡体制についてのお尋ねでございます。近年、低気圧の発達による暴風、台風による暴風雨など、これまでになく多くの災害が発生しております。また、各地に未曾有の被害をもたらした、東日本大震災からはや3年が経過することから、改めて防

災体制の早急な整備、強化、情報伝達体制の確立を図るため、現在取り組みを進めているところであります。気象情報、緊急地震速報や武力攻撃情報などの国から発信される情報を、人工衛星を用いて受信する全国瞬時警報システムいわゆるJアラートを消防署に配置しております。しかし、これまではこのJアラートで受信した情報を市民へ発信する手段として、広報車による広報や、担当者が手で入力し配信する緊急速報メールが主な手段となっていたため、その送信作業に時間を要しておりました。これらを解消するため、今年度新たに自動起動装置を整備し、職員の手を介さずにJアラートからの情報を瞬時に緊急速報メールや登録制メールにより、市民の皆様へ配信できるよう整備を進めてきたところであります。運用開始前の2月15日と3月1日の2回にわたり、情報発信の内容やメールの登録方法を市報折込で市民の皆様へ周知をし、3月3日から運用を開始したところであります。今後、防災行政無線への接続も検討しながら、よりきめ細やかな情報を市民の皆様へ発信できるよう取り組みを進めてまいります。

また、震度7の地震が発生した際の対策本部の体制についてであります。市の地域内に震度6弱以上の大規模な地震が発生した場合は、地域防災計画に基づき、災害対策本部が設置されます。本部の組織体制は、「尾花沢市災害対策本部条例」の定めるところにより、市長が本部長とし、各所属長等を本部員とした本部体制が構成され、各所属の日常業務を考慮し、班、係を構成し、災害対策所掌事務を実施する編成となっております。また、本部の設置場所は、原則的に市役所庁舎内とし、万が一、市役所庁舎が被災により本部が設置できない場合は、文化体育施設「サルナート」、学習情報センター「悠美館」の順に代替の設置場所にすることとしております。今後は、震度7の地震が発生した場合などでも、迅速かつスムーズな対応ができるよう、防災訓練や図上訓練等の各種訓練を通して、本部体制の設置手順を確認しながら、大規模災害に備えてまいりたいと考えております。

また、各地区のハザードマップの作成状況についてであります。昨年度まで、福原地区及び常盤地区で地区公民館を中心に作成しており、各地区民に対し全戸配布を行っているところであります。また、その他の地区につきましても関係機関と連携を図りながら、今後早急に作成を進めてまいります。

また先日、新聞報道にもございましたとおり、議員仰せのとおり、水防法に基づいて市町村が作成する「洪

水ハザードマップ」につきまして、一部の河川のマップが未作成であったとの報道がありました。洪水ハザードマップは、国や県が決めた浸水想定区域図をもとに、市町村が作成し、市民に周知するものであります。今回未作成となった河川の浸水想定区域には、人家がなく、市民への影響が少ないことから、これまでマップを作成してこなかったものであります。そのため、県が補助を受けて作成した浸水想定区域図の内容が、市民まで伝わらず、国の補助金が十分有効活用されなかったというものであります。今後、県で示した浸水想定区域を再度確認し、未作成であった洪水ハザードマップを早急に作成するとともに、市民への周知、配布を行ってまいりたいと考えております。

さらに今回、初の試みとして、尾花沢雪まつりのフェイスブックを立ち上げたところであります。雪灯籠の募集の告知からはじまり、雪像作りの様子や、東北芸術工科大生の協力による、雪でみるラブレター街道、雪まつりと同時開催した道の駅「ねまる」での鍋まつりの様子、花笠高原スキー場でのスキー場祭りの様子などもフェイスブックに投稿し、タイムリーな情報提供に努めたところ、大変好評を得たところです。ちなみに「いいね!」は149人でした。今後は四大まつりなどの開催に合わせてフェイスブックを活用し、タイムリーな情報発信に努めてまいりたいと考えております。

次に、DCキャンペーン後の観光ビジョンについてのお尋ねでございます。議員仰せのとおり、冬期間における徳良湖の誘客対策の強化は重要であると考えております。夏場であればオートキャンプ場をはじめ、グランドゴルフ、グラススタジオ旭、レストラン徳良湖、徳良湖周辺の遊具などがあり、多く市民や観光客で賑わっている状況でございますが、冬期間については、雪のため閉鎖している施設も多く、冬期間ならではの魅力づくりが課題となっております。冬期間における徳良湖周辺への観光誘客対策であります。やはり徳良湖周辺の本来の景色の美しさに加え、雪を活かしたイベントなどの開催や、徳良湖元気むらの方々との共同事業などを企画し、誘客の拡大に繋げていきたいと考えております。

また、銀山温泉の観光誘客の点の銀山温泉のトイレと駐車場についてであります。現在のトイレの設置状況につきましては大湯、しろがねの滝、白銀公園の3箇所となっております。銀山温泉のトイレや駐車場につきましては、受入客の環境向上のため以前から新設の要望がありますが、土地の問題などの課題があります。特に地元である銀山温泉組合のコンセンサスがな

ければ実現は不可能ではないかと考えているところで、今後のまたさらなる課題と捉えております。

また、「おもてなしの心」につきまして議員仰せのとおり非常に重要なものと考えてございます。来年度のDCだけでなく継続していくことが、さらなる誘客につながるものと考えております。現在、県の観光協会では、『山形日和』おもてなし運動』を実施し、賛同する企業・団体から「おもてなしプラン」を募集しているところであります。おもてなしプランとは、自分たちができる範囲内でのプラン。例えば、お客様に笑顔で明るくあいさつをする。観光バスを見たら、笑顔で手を振る。笑顔で明るく挨拶するなどを登録して、DC期間だけでなくアフターDCまでの期間平成27年9月12日ですが、実践していくものであります。当市でも商工会や商店街など各企業にも周知し、市民一丸となって「おもてなしの心」でお客さまをお迎えしたいと考えております。市内のタクシー会社については、ドライバー全員が観光案内できるよう「おもてなし研修」に参加されるなど、DCに向け、積極的に取り組まれております。

また、市内のコンビニやガソリンスタンド、飲食店などには「花笠のまち観光案内所」として登録していただきまして、観光パンフレットやイベント情報を置かせていただいております。今現在で72店舗から登録していただいておりますが、将来的にはこの案内所の方々からも地域観光案内人として活躍していただければと考えております。そのスキルアップのため、県で実施している観光研修の案内やお知らせなど、DCに向けて情報を提供しながら、市民一人おひとりが「尾花沢の案内人」となれるようサポートしていきたいと考えております。また、こうした取り組みがよく言われますようなDC燃え尽き症候群一過性とならぬよう、持続性を持って実施してまいります。

次に、再生可能エネルギー活用法についてのお尋ねであります。木質バイオマスエネルギーの活用状況についてであります。身近な設備として、議員仰せのペレットストーブや薪ストーブの利用が徐々に出てきております。平成24年度以降、市内において、県の再生可能エネルギー導入補助金や市の住宅リフォーム補助金を活用して、木質バイオマス燃焼機器を導入した件数は、10件程度となっております。再生可能エネルギーの活用事例のひとつとして、木質ペレットストーブの利活用を山形県において奨励しているところであります。本市では、議員仰せのとおり、昨年12月に活用方法の周知を図るため、山形県みどり環境交付金事

業を活用して、市民ホール内に設置したところであります。市民ホールを訪れる市民等の関心も高く、のぞき窓から見える炎に癒されるとの感想もいただいております。木質バイオマスエネルギーの導入促進にしましては、新年度予算案に市単独の「再生可能エネルギー設備導入事業費補助金」を計上しており、県の補助金とともに支援を充実し、家庭や事業所等への導入を促進してまいります。

次に、「花笠の湯」及び「御所の湯」の燃料である重油につきましては、今後も高い水準で推移するものとされ、極端に値下がりしていく可能性は低いと考えております。議員仰せの再生可能エネルギーの活用法についてであります。木質バイオマスエネルギーや、温泉排湯を利用した地中熱ヒートポンプシステム、ボイラーの廃熱を利用したシステムに加え、電気料を削減するシステム等のお話もお聞きしておりますので、今後さらに情報収集に努め、費用対効果も含め様々な観点から活用等について研究してまいりたいと考えております。

次に、銀嶺荘についてであります。銀山温泉協同組合からの給湯停止により、やむを得ず休館にいたったものであり、ご利用くださった方々にはご不便をおかけしております。現段階で、新源泉掘削等の動きもみられず、銀嶺荘の再開のめどはたっておりません。再生可能エネルギーを活用した沸かし湯では、これまで、銀嶺荘を利用していただいた方々には、満足いただけないのではと思っております。一日も早い給湯再開を望んでいるところでございます。

次に、大石田町との合併によるお尋ねでございます。市町村の合併についてであります。平成7年4月に合併特例法が施行され、平成12年に山形県市町村合併推進要綱が策定されたことから、県内各地で市町村合併の機運が高まりました。「三位一体の改革」が推し進められるなかで各自治体は厳しい財政事情から、合併特例債は大きな魅力でありました。

本市と大石田町の合併につきましては、住民アンケートや各地で座談会を実施しながら時間をかけて何度も議論され、最終的には両議会の議決を得て、合併の道を選択しました。平成16年4月、尾花沢市・大石田町合併協議会が設置され、全15回の協議会が開催されています。11月には新市の名称も「はながさ市」と決まったところでありましたが、平成17年2月、大石田町では合併の賛否を問う住民投票が行われ、合併を断念した経過がございまして、当時県会議員としても、大石田町に係わっている一議員としても大変残念だ

と思った次第でございます。現在、本市と大石田町では、上水道や下水道、ごみ処理、し尿処理については環境衛生事業組合を設置し運営にあたっておまして、消防事業につきましては大石田町から委託を受け実施しております。しかし、こうした事業の施設整備については多額の費用を要し、今後さらなる広域化についての検討も必要かと考えております。議員仰せの合併等について考えていく上で、限りある財政の中で、いかに質の高い行政サービスを提供し、かつ、住民の方々の声が反映できる自治体の規模がどの程度がふさわしいのか検討すべき課題であるとは認識しておりますが、かつてのような「合併特例法」による優遇措置がない現状におきましては、大石田町との合併は当面考えておりません。

次に、優れた雪文化を世界に情報発信してはとのご提案とお尋ねでございます。議員仰せのとおり、雪国ならではの里山文化は、本市の宝の1つと考えており、里山を活かした地域の活性化は大切な課題であります。また、少子高齢化により過疎化が進む中、豪雪地の住環境を整えていくには、居住空間の雪対策や自然エネルギーの有効活用が不可欠であると認識しております。バイオマスエネルギーの地産地消に関するお尋ねであります。施政方針でも申し上げましたように、再生可能エネルギーの導入に関しましては、本市の地域資源を有効活用し、二酸化炭素排出削減による地球温暖化防止と地域循環型社会の構築、そして雇用創出に結び付くことが重要であります。このような観点から、本市の有望な地域資源として、市面積の約7割を占める森林資源が挙げられます。今後は、木質バイオマスとしての利用可能な資源量の把握や事業の採算性などを明らかにしながら、産学官民による新エネルギー推進会議の助言・提言を受けて進めてまいります。

また、豊富な雪がもたらす雪氷熱エネルギーの利活用を推進するため、新年度予算案に盛り込んでいます再生可能エネルギー設備導入事業費補助金の対象設備として雪氷熱利用設備も考えており、民間における「雪むろ」や「雪冷房装置」の導入を促進してまいります。

さらに、尾花沢市雇用創造協議会では、平成25年度から3ヶ年で「負けるな豪雪地！雪を攻略して雇用拡大を目指せ！」をテーマに実践型地域雇用創造事業に取り組んでおります。事業内容につきましては、地域求職者等向けにセミナーを行う雇用創出メニューと、求職者を雇用し、地域素材を活かした事業を実施する実践メニューで構成されております。実践メニューでは、本市の特産品であるスイカを活用した肥育牛用飼料の

研究や、雪国の必需品であるスノーダンプの補強部品の試作、银山温泉を活かした事業を実施しております。特に、約10万人ともいわれます银山温泉の日帰り観光客を対象に、食べながら散策できる「テイクアウトフード」、「地元の食材を活かしたお土産」の開発を手掛けており、原材料の栽培から製造・販売までの仕組みを構築することにより6次産業化を実現するとともに産業の振興を目指しております。

また、今年度は、現地でニーズ調査を行いながら、伝統野菜の赤長カブや周年農業で栽培された小松菜などを活用したスイーツの開発にも取り組んでおり、今後は、食材だけでなく、温泉の熱やお湯などを栽培や調理に利活用する手法なども検討しながら事業を進めてまいります。

以上、私の答弁で答弁漏れあるいは詳細につきましては担当課長より答弁いただきますのでよろしくお願いたします。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原未知子議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

もう少し再質問したいところがあるんですけども、細かいところまで具体的に答弁いただいて本当にありがとうございます。いろんな意味、この雪を活かして尾花沢市がこれから本当に元気になっていくためには、みんなが協力して各地域の宝をもう一度磨き直して、そして、新しく未来にむかってPRしていくことが大事なんだということをつくづく感じたところがあります。

最初に質問しました緊急時の連絡体制なんですけれども、先ほどJアラート全国に瞬時に情報を発信する、素晴らしい機器なんですけれども、やはり受信側の設定先ほど3月1日にチラシ折込がありまして、その操作をしていくと各端末機、携帯電話だったり、スマートフォンだったりさまざまあるわけなんですけれども、受信側できちんと設定していないと、できないということもありますので、そのあたりどのように、市民のみなさまにチラシを配ったところで、それを実際に行っている方が何人いるかも含めて、今現在どのような状況なのか。僅か1週間くらいだと思いますけれども、早速私のほうも3月1日きた時に直ぐ自分の携帯、iPad、さまざまなものに設定してみたところなんですけれども、どうでしょうか。市内のようすのほうお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（鈴木敏正 議員）

総務課長。

◎総務課長（笹原隆一君）

それではお答え申し上げます。先ほど、市長のほうからも答弁ありましたように、3月3日から運用開始したわけでございますけれども、はっきりした登録の件数は今のところ把握していないんですけれども、100名から200名の間の登録があるようでございます。それで今後についても、より多くの方に登録をしていただくというふうな形で、2回の事前の登録方法を市報折込で市民の方に、お知らせしたわけでございますけれども、これは定期的に、その登録方法を市民の方に、方法を提供していかなければならない、というふうに思っておりますので、定期的にその方法というものを市報、折込などで今後継続的に続けてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（鈴木敏正議員）

塩原未知子議員。

◎3番（塩原未知子議員）

ありがとうございます。ぜひ、公民館なりいろんな人がいるところで、伝えていただきたいなと思っております。実はですね、職員さん全部あわせても300人以上いますよね。みなさん登録しても300人。あとそのみなさんがさらに家族に、さらにご近所に、お友達にそれだけでも大分多くの方々に、お知らせできるかと思っておりますので、ぜひ人伝えで紙だけではなく1人1人がJアラートの情報ができていない方に、伝えるという方法をとっていただきたいと思っております。

さらに、いろいろな災害の情報なども多岐にわたってあると思っておりますが、尾花沢市のなかの情報が、非常に地元において地元の情報が実は、あまり伝わらないというのを最近感じているところです。全国のニュース、ソチオリンピックの場合は、世界のニュースを毎日のようにテレビなりインターネットなりで入手できたぐらいですけれども、実は、本当に尾花沢市の情報が、瞬時に手に入るかという、意外に手に入らないというのが昨今です。その辺りも充分考慮して、これからの危機対策に役立てて欲しいと思っております。

あと、フェイスブックの雪祭りのお話を聞きまして各地の雪祭り、スキー場、今回徳良湖はなかったんですけども、会場がさまざま点在しているときでも、1つの会場からインターネットを通してフェイスブックで見られた。あとは、各家庭の写真が送られてきたというのは、大変素晴らしい成果だったと思っております。これを防災に置き換えると、雪崩箇所、危険箇所、さまざまなもの、そこの現場に行かなくても、入手できるというような方法に切り換えていくこともできま

すので、ぜひこのフェイスブックを充分利活用考えていただいて、みなさん使う方もただですけれども、それを解説するほうもいたって簡単で、さらにただで利用できます。ですので、フェイスブックという会社が続く限り利用させていただくということで、緊急時のいろいろな情報を交換できる道具として使っていければと思っております。

あとそれも含めて、DCキャンペーンの観光ビジョン。本当に、雪国尾花沢ならでわということで、どんどん特徴ある情報発信をしていただきたいと思います。最近ですね「パンフレットが新しくならない。」あと「不足している。」「歩くためのパンフレットではないので、問い合わせが多い。」というようなお話も聞いております。特に多いのは、銀山温泉の日帰りのお客様だと思います。最近はですね、昨年だと思うんですけども、キャンペーンに尾花沢市のほうから向かったと思っておりますけれども、タイのお客様が増えているということは、やはりそういう1年前の宣伝効果が、じわじわとやってきているのかなと思っておりますので、ぜひ、インバウンドを狙ったそういう方々に対しての情報発信も含め、丁寧にやっていただきたいと思います。DCキャンペーンは、本当に大きな山形県のなかの流れの中で、いかに尾花沢市を売っていくかということで、これからにかかっていると思っておりますけれども、本当にいろいろな宝がたくさんある尾花沢市でございます。それを繋いでいくというか、わかりやすくお客様に利用できるような情報発信こそ、一番大切になってくるんでないかなと思っておりますので、ぜひ力を合わせてお客様に対して気持ちいいサービス、おもてなしできるようにやっていただきたいと思います。

先ほど、雪が資源と、言っていましたけれども、この議場だって夏、ここの冷房、多分ですね議会の議場で活躍するのは9月の定例会だと思います。その間の夏の7月、8月の暑い時には、ここにもお客様も呼んで、そして再生可能エネルギー、さらには、尾花沢市の再生可能エネルギーパークの、一番最初のスタート地点のこの雪山冷房だったと思っておりますので、ここにもお客様を呼んで、さらにいろいろなアピールをしてみたいかなと思っております。そのようなお考えはありませんでしょうか。お聞きしたいと思います。

◎議長（鈴木敏正議員）

新エネルギー推進室長。

◎新エネルギー推進室長（鈴木浩君）

お答えいたします。ただいま、議員からお話がござ

いましたように、今回議会等にもお陰様で雪冷房装置を拡大させていただいております。そういった部分も含めまして、現在の次世代エネルギーパークというように、市内の対象施設を市内外にPRしておるところでございますけれども、そのなかにさらに拡大した部分あるいは、いまやっております地中熱利用のサルナートの設備、あるいは徳良湖のマイクロ水力発電。そういった再生可能エネルギーの設備も合わせて含めまして、市内外に発信をしながらPRに努めてまいりたいというふうに考えてございます。

◎議長（鈴木敏正議員）

塩原未知子議員。

◎3番（塩原未知子議員）

ありがとうございます。ぜひ、そういった見学コース。平日の日中が一番狙い目で、いろいろな観光のお客様でいくと、ビジネスのお客様もちょっとようすを見ていこう。雪山冷房、もしくはヒートポンプを見ていこうという形になると思いますので、ぜひ違ったターゲットということで、この再生可能エネルギーのパークを利用して全国発信していつてもらいたいと思います。

さらに花笠の湯には、いろいろ今も太陽光のパネルがありまして、どれくらい発電しているかというのが、すぐわかりやすく、液晶ビジョンで見られるようになっております。実際屋根がちよっと見られないのが残念ですけども、雪山の雪室のほうも入口すぐの所に見えますし、それを使ったそばを食べていただく、ということでかなりのアピール力があります。花笠の湯のいろいろな使い方というのが、そういう観点からみますと、いろいろ別な活用方法もあると思いますので、ぜひ、花笠の湯にそういう再生可能エネルギーとは何だというようなパネルを置くとか、いろいろな銀山温泉、尾花沢の市役所のほうに行くために、BDFのバス、銀山線が通っておりますよね。あれもなかなか滅多にいろんな所にはないと思います。観光できたお客さんが、それに乗って体験できるということが、貴重な体験になると思いますので、ぜひそのような発信を徳良湖の花笠の湯でやっていただきたいなと思います。もちろんこの、尾花沢市のみなさんが待っているバス停の入口でも構いませんので、そういうところで、繋いでいって尾花沢市全体でそういう取り組みをしているんだ、ということアピールしていついただきたいと思っております。それが惹いては、高騰している燃料に対して、今後1年2年の話ではないと思います。10年20年その先、どういった形で地域のエ

ネルギーを回していくかということにもかかっておりますので、ぜひ率先して公共施設のほうで試して、そして良いものと分れば、民間のほうにさまざま展開していついただきたいと思っております。今回そのような補助事業を来年度用意していただいているということで、大変よかったなと思っております。ひとりでも多くのご家庭、あとは企業のみなさんが、地域のエネルギーを使っていくという観点で、考え方を考えていついただきたいなと思っております。

次に、大石田町との合併のことをもう少しお聞きしたいんですけども、先ほどは、市長の答弁の中では当面はないと言っておりましたが、公益的にはいろいろな観点から考えて、いろんな意味、市町村と組んでいかなければいけないと思っております。今現在、大石田町と組めるとすると一番観光の部分では、直ぐにでも手を組めるのかなと思っております。入口が大石田駅です。今回のDCキャンペーンというのは、JRの大きなイベントですので入口、出口が大石田駅でございます。ですので、その観点からも含めて、尾花沢市と大石田町は一体だと私は思っております。観光に関しては、どうお考えなのか市長のご答弁をお願いします。

◎議長（鈴木敏正議員）

市長。

◎市長（加藤國洋君）

今、議員からお話があったように、観光面の合併までいなくても、連携強化取り組みということのお話で、私も県議会から大石田町のみなさんといろいろ関わりを持たせてもらいました。そういった中で、大石田町の文化に係わるいろいろな行事、イベント、特に今これから行われる雛祭り。こういった観点から虹の観光案内人というボランティア組織で、本当に観光面も力を入れていらっしゃいます。そういったいろんなイベント、行事を通じながら尾花沢市と一緒にできる分野、部門。これは議員仰せのとおり、確かに共通する部門が非常にございます。そういった面では、従来のいろいろ連携しながらやってはきておりますが、DCキャンペーンを契機としまして、さらにこういった観光面での連携強化は必要かなとそのように考えておりました。関係部署とのしっかりとした取り組みを指示していきたいと思っております。

◎議長（鈴木敏正議員）

塩原未知子議員。

◎3番（塩原未知子議員）

ありがとうございます。本当に、ひな街道もそば街道もそうですし、いろんな意味で大石田町の入口から

出口ということで、尾花沢市の場合は13号ということもあるんでしょうけれども、冬の間347号が通るまでの間は、本当に玄関が私は大石田町だと思っておりますので、ぜひそのような連携を今回のDCキャンペーンというのは、そういう意味でいろいろその後どういう形の町づくりをしていくか、ということが一番の肝になっておりますので、加藤市長の県議時代の本当に力もあると思いますので、ぜひそのあたり合併どうのという話ではなく、観光面に関してはいつも一緒なんだという。本当に食文化もそうなんですけれども、ペそら漬、いろいろな意味で花笠踊りにしても、全て私は、大石田町と一緒に今まで文化を築いてきた、尾花沢市と思っておりますので、ぜひ、そのあたりよろしくお話ししたいと思います。

最後に、雪国文化に関してなんですけれども、この前も、どぶろくのほう発表になったと思うんですけれども。桃色のどぶろくという形で、今回新しくなったということなんです。いろいろな食文化のなかで、雪国再生特区というのを尾花沢市では随分前から取っております。けれども、内容としてはどぶろく特区のようなもので、いろいろなものであるという私は認識であったんです。けれども、実は、どぶろくを作れる特区であるということで、もっともっとこれを活用して、みなさんが本当に健康で楽しくすごすために食に関して、もっともっと雪国の文化を利用した情報発信なり、あと新しい開発をしていただきたいなと思っております。雪室でそば粉を保存して、夏場の劣化する時期においしくいただく。あとは、お米も貯蔵して長い間おいしくいただける、そういうような利用もありますけれども、醸造文化さらには発酵文化という形で、雪国には大変優れた保存するという技術ですね、そういう文化が大変幅広く、さらには、日常普通のお母さんたちが、本当にそれぞれの工夫で自分たちが作った食材をおいしく出しております。いろんなところにおじゃましますと「うちには何もないんだけど、漬物あがっしゃい。」という言葉が非常に私は、尾花沢市ならではのおもてなしの心。そして手間隙をかけて作った材料から、雪国文化の発酵、醸造さまざまな技術をもってお客様に提供する。その心こそ、一番のおもてなしだと思っておりますので、ぜひいろいろな形の今後の展開考えていただきたいと思っております。何か新しい商品開発、銀山温泉でケータリングということを先ほどお聞きしましたけれども、そのあたりもう少し詳しくお聞かせ願えませんでしょうか。

◎議長（鈴木敏正議員）

産業振興室長。

◎産業振興室長（菅野他人男君）

銀山温泉を利用した新しいものということでございますが、今現在先ほど市長がお答え申し上げましたとおり、いろいろな形で何かできないかということで努力中でございますのでよろしくご協力いただければと思います。

◎議長（鈴木敏正議員）

まだありますか。塩原未知子議員。

◎3番（塩原未知子議員）

ありがとうございます。これで、私の質問を終わります。

◎議長（鈴木敏正議員）

以上で、塩原未知子議員の質問を打ち切ります。ここで昼食のため午後1時まで休憩いたします。